

くらしの情報

新処理施設・新最終処分場
のお知らせ

編集・発行
一関地区広域行政組合（一関市・平泉町）

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場 建設候補地を絞り込みました

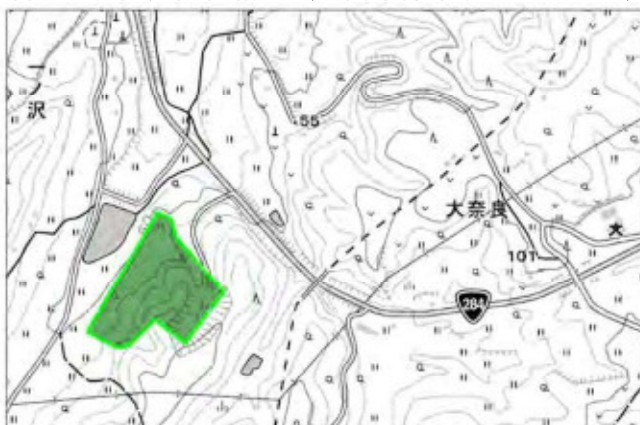
組合が検討を進めてきた、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設（新処理施設）と一般廃棄物最終処分場（新最終処分場）の候補地について、令和2年11月27日に管理者・副管理者会議を開催し、それぞれの施設の建設候補地を次のとおり絞り込みました。

- 新処理施設建設候補地 …………… 一関市弥栄字一ノ沢ほか
- 新最終処分場建設候補地 ……… 一関市千厩町千厩字北ノ沢ほか

建設候補地の位置図（各図は、国土地理院の電子地図（タイル）に建設候補地の位置を追記して掲載）



新処理施設建設候補地（一関市弥栄字一ノ沢ほか）



新最終処分場建設候補地（一関市千厩町千厩字北ノ沢ほか）



※範囲は確定したものではありません。今後、施設の具体的な配置計画を検討していきます。

第4回説明会を開催しました

新処理施設と新最終処分場に関する第4回説明会を一関市及び平泉町の8会場で開催し、延べ126人の皆様にご参加いただきました。

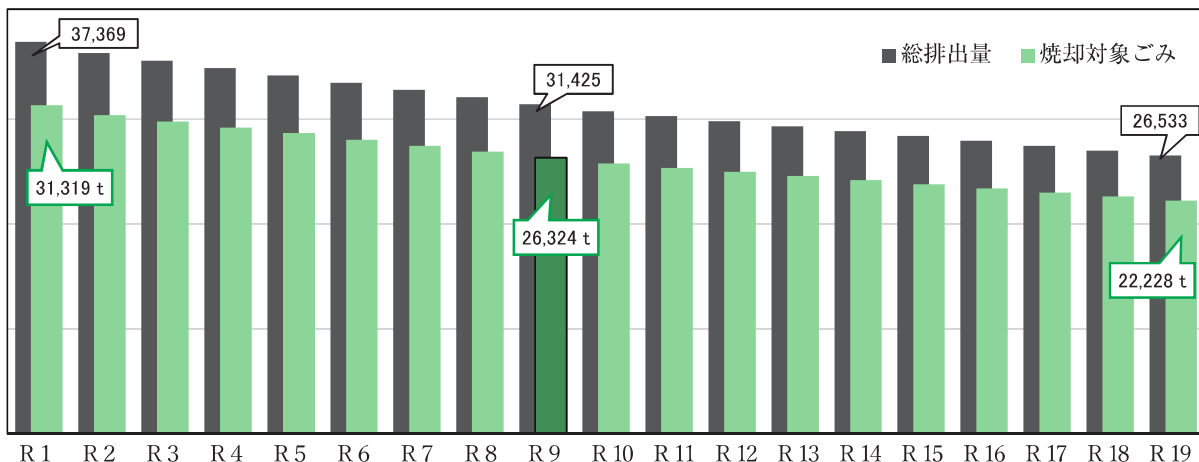
説明会では、組合から第3回説明会の概要と施設整備の検討状況について説明した後、一般財団法人日本環境衛生センターから他の自治体の事例などについて情報提供を行いました。

開催日	会 場	参加者数
11月6日(金)	刈生沢コミュニティセンター	17人
11月7日(土)	マリアージュ	35人
	一関市産業教養文化体育施設アイドーム	12人
	滝沢市民センター	13人
	牧沢集会所	9人
11月8日(日)	弥栄市民センター平沢分館	16人
11月9日(月)	平泉町役場	14人
11月10日(火)	東山市民センター	10人
計	8会場	126人

1 新処理施設の施設規模（案）

施設規模は、焼却対象ごみの将来推計を基に、次のとおり検討しました。

(1) ごみの総排出量・焼却対象ごみの将来推計



(2) 施設規模

施設規模は、施設の稼働開始目標としている令和9年度の焼却対象ごみの推計量を基に、過去10年間の災害廃棄物の処理量を加えて計算しました。

1日当たりの平均処理量 (26,324t/年 ÷ 365日)	実稼働率 0.767	調整稼働率 0.96	災害対応加算 7.6%	施設規模 106t/日
$\div \times (100\% + 7.6\%) \div$				

1日当たりの平均処理量：年間処理量の日量換算値

実稼働率：設備の補修・点検などで処理を停止する期間を考慮した稼働率

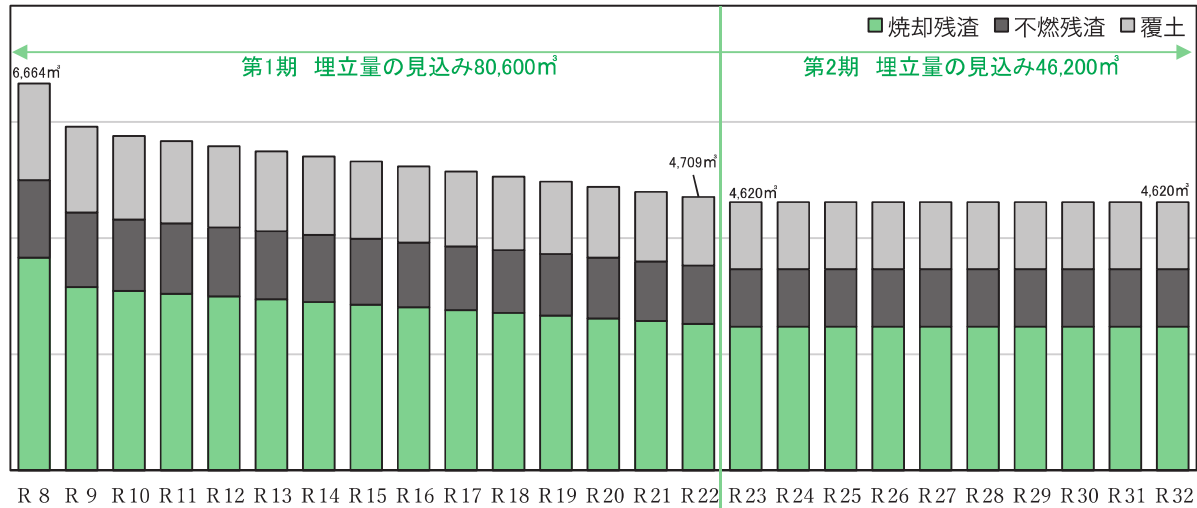
調整稼働率：設備の一時停止などによる処理能力の低下率

災害対応加算：過去10年間の最大災害廃棄物処理量の令和9年度処理見込量に対する割合

2 新最終処分場の施設規模（案）

施設規模は、施設の供用開始目標としている令和8年度から22年度を第1期、令和23年度から32年度を第2期の埋立期間として、埋立量の見込みを計算しました。

(1) 最終処分場の埋立量の将来見込み



(2) 施設規模

第1期	(15年間の埋立量の見込み)	:	80,600 m³
第2期	(10年間の埋立量の見込み)	:	46,200 m³
施設規模 (合計)		:	126,800 m³

3 新処理施設で回収できるエネルギー量の見込み

ごみの焼却によって発生する熱から、新処理施設で回収できるエネルギーの種類と量を推計しました。

(1) 電気

新処理施設では、ごみの焼却により発生する熱を蒸気として回収して発電に利用します。発電した電気は、まず新処理施設で利用し、残りは他の用途に利用できます。

発電出力	新処理施設利用分	他の用途に利用できる電力
1,633 kW	− 608kW	= 1,025kW

1,025kWの電力は、1か月当たりでは738,000kWh/月となります。仮に1世帯当たりの電気使用量を260kWh/月とすると、計算上は約2,800世帯分の電力となります。
※kW(キロワット)…電力の単位

(2) 熱量

発電に利用した後の蒸気は、50度程度の温水になります。この温水に含まれる熱もエネルギーとして利用します。回収した熱も、まず新処理施設で利用し、残りは他の用途に利用できます。

回収熱量	新処理施設利用分 (ロス分含む)	他の用途に利用できる熱量
23.2GJ/h	− 14.5GJ/h	= 8.7GJ/h

【新処理施設利用分(ロス分含む)の内訳】
新処理施設で利用する量 1.9GJ/h
利用できない量(ロス分) 10.2GJ/h
敷地内で利用する量 2.4GJ/h

8.7GJ/hの熱量は、例えば融雪に利用するとした場合、計算上は面積で6,690㎡(幅員8mの道路にして836m)の熱量となります。
※GJ(ギガジュール)…熱量の単位

4 候補地の評価

各施設の候補地の評価は、次のとおりです。
 なお、候補地の評価は、説明会でいただいた意見を反映したものです。

(1) 評価項目

候補地の評価の項目は、次のとおりです。

評価対象 基本方針	新処理施設整備候補地	新最終処分場整備候補地
安定性に優れた 安全な施設	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 配慮を要する構造物 土質	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 湧水・表流水 土質
環境に配慮した 施設	交通量 交差点位置 取付道路 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響	交通安全 排水環境 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響 周辺農地への影響
廃棄物を資源として 活用できる施設	資源の活用先	
災害に強い施設	予測される自然災害の種類 施設建設の阻害要因	予測される自然災害の種類 施設建設の阻害要因
経済性に優れた 施設	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 収集運搬費	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 運搬費
その他	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 文化財	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 工事環境

- ※**評価項目名** …定量評価の項目 **評価項目名** …定性評価の項目
 ※**評価項目名** …説明会でいただいた意見を受けて追加・変更した評価項目

評価の見方

候補地	〇〇字××ほか	〇〇字××ほか	〇〇字××ほか	〇〇字××ほか
評価項目				
受電環境				
給水環境				
配水管までの距離				
この区分において優位と評価した候補地	○		△	◎

課題はグレーで表示

◎：最も優位とした候補地
 ○：2番目に優位とした候補地
 △：3番目に優位とした候補地
 □：優劣はないと評価した区分

(2) 新処理施設整備候補地の評価

① 安定性に優れた安全な施設

候補地 評価項目	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
受電環境	優劣はない			
給水環境	優劣はない（いずれも給水区域内）			
配水管までの距離	優劣はない（270 m～640 m、設備の管理上で大きな差はない）			
亜炭採掘鉱区	鉱区外	鉱区内 詳細調査が必要	鉱区内 詳細調査が必要	鉱区外
配慮を要する構造物	J R大船渡線 特別な対策が必要となる可能性あり	高圧電線 特別な対策が必要となる可能性あり	構造物は確認されていない	構造物は確認されていない
土質	盛土流用に適している	盛土流用するには土質改良が必要	盛土流用するには土質改良が必要	盛土流用に支障はない
この区分において優位と評価した候補地	○		△	◎

② 環境に配慮した施設

候補地 評価項目	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
交通量	優劣はない（いずれも十分な交通安全対策が必要）			
交差点位置	勾配の急な坂の途中、かつ見通しが悪いカーブ付近	勾配の急な坂の途中、かつ見通しが悪いカーブ付近	勾配の急な坂の途中、かつ見通しが悪いカーブ付近	他の候補地に比較して勾配が緩やかで、比較の見通しが良いカーブ付近
取付道路	優劣はない（いずれも急勾配となる）			
景観との調和	優劣はない			
自然環境への影響	新たな土地開発を行うものであり、ある程度の環境負荷を伴う	新たな土地開発を行うものであり、ある程度の環境負荷を伴う	新たな土地開発を行うものであり、ある程度の環境負荷を伴う	既に土取場として使用されていた部分があり、他の候補地に比べて新たな土地開発に伴う環境負荷が少ない
生活環境への影響	優劣はない（いずれも300 m以内に住宅等があり、騒音などへの対策が必要）			
この区分において優位と評価した候補地				◎

③ 廃棄物を資源として活用できる施設

候補地 評価項目	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
資源の活用先	優劣はない			
この区分において優位と評価した候補地	□	□	□	□

④ 災害に強い施設

候補地 評価項目	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
予測される自然災害の種類	優劣はない			
施設建設の阻害要因	優劣はない			
この区分において優位と評価した候補地	□	□	□	□

⑤ 経済性に優れた施設

候補地 評価項目	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
初期費用 造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費	優劣はない 初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で、2.5%の差			
維持費用 運転管理費 収集運搬費	(合計 360.1 億円)	(合計 361.2 億円)	(合計 352.5 億円)	(合計 359.3 億円)
この区分において優位と評価した候補地	□	□	□	□

⑥ その他

候補地 評価項目	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
総合計画・土地利用計画との整合性	具体的な開発計画などはなかった			
協働による地域づくり	現時点において、候補地間の比較をするには至らなかった			
利用者の利便性	国道や主要地方道からの距離が短く、利便性が高い	国道や主要地方道からの距離が短く、利便性が高い	国道や主要地方道からの距離が比較的長く、利便性が低い	国道や主要地方道からの距離が短く、利便性が高い
想定地権者数	優劣はない（8人～28人、用地取得上の支障とはならない）			
想定筆数	優劣はない（29筆～78筆、用地取得上の支障とはならない）			
文化財	文化財は確認されていない	文化財包蔵地が近くにある	文化財は確認されていない	文化財は確認されていない
この区分において優位と評価した候補地	◎	○	○	◎

⑦ 総合評価

候補地 基本方針(評価区分)	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
①安定性に優れた安全な施設	○		△	◎
②環境に配慮した施設				◎
③廃棄物を資源として活用できる施設	□	□	□	□
④災害に強い施設	□	□	□	□
⑤経済性に優れた施設	□	□	□	□
⑥その他	◎	○	○	◎

各区分の評価を総合し、優劣がないと評価した評価区分を除く他の評価区分で最も高い評価を得た「**弥栄字一ノ沢ほか**」が最適であると評価

(3) 新最終処分場整備候補地の評価

① 安定性に優れた安全な施設

評価項目	候補地	滝沢字駒場ほか	金沢字長沢ほか	千厩字北ノ沢ほか	長坂字長平ほか
受電環境		優劣はない			
給水環境		給水区域内	給水区域内	給水区域内	給水区域外
配水管までの距離		設備の管理上で大きな差はない (60 m)	設備の管理上で大きな差はない (770 m)	設備の管理上で大きな差はない (300 m)	給水区域外
亜炭採掘鉱区		一部鉱区内 詳細調査が必要	鉱区外	鉱区外	鉱区外
湧水・表流水		表流水は主に浸透して湿地となる地形	流水はあるが、建設、維持管理上、支障はない	流水はあるが、建設、維持管理上、支障はない	多量の湧水への対策が必要
土質		高含水比のため、盛土流用には土質改良が必要	高含水比のため、盛土流用には土質改良が必要	盛土流用するのに支障はない	基盤が岩塊のため、盛土流用には適さない
この区分において優位と評価した候補地		△	○	◎	

② 環境に配慮した施設

評価項目	候補地	滝沢字駒場ほか	金沢字長沢ほか	千厩字北ノ沢ほか	長坂字長平ほか
交通安全		一般的な交通安全対策で対応可能	一般的な交通安全対策で対応可能	一般的な交通安全対策で対応可能	防護柵等の交通安全対策が必要
排水環境		近くの河川に漁業権が設定されていない	近くの河川に漁業権が設定されていない	近くの河川に漁業権が設定されていない	近くの河川に漁業権が設定されている
景観との調和		優劣はない			
自然環境への影響		優劣はない (いずれも新たな土地開発であり、ある程度の環境負荷を伴う)			
生活環境への影響		優劣はない (いずれも 500 m 以内に住宅があり、騒音などへの対策が必要)			
周辺農地への影響		優劣はない (いずれも下流の水田への配慮が必要)			
この区分において優位と評価した候補地		◎	◎	◎	

③ 災害に強い施設

評価項目	候補地	滝沢字駒場ほか	金沢字長沢ほか	千厩字北ノ沢ほか	長坂字長平ほか
予測される自然災害の種類		優劣はない			
施設建設の阻害要因		優劣はない			
この区分において優位と評価した候補地		□	□	□	□

④ 経済性に優れた施設

評価項目	候補地	滝沢字駒場ほか	金沢字長沢ほか	千厩字北ノ沢ほか	長坂字長平ほか
初期費用 造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費		初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で 5 % 以内	初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で 5 % 以内	初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で 5 % 以内	初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で 20 % を超える
維持費用 運転管理費 運搬費		(合計 53.7 億円)	(合計 56.2 億円)	(合計 54.4 億円)	(合計 66.1 億円)
この区分において優位と評価した候補地		◎	◎	◎	

⑤ その他

候補地 評価項目	滝沢字駒場ほか	金沢字長沢ほか	千厩字北ノ沢ほか	長坂字長平ほか
総合計画・土地利用計画との整合性	具体的な開発計画などはなかった			
協働による地域づくり	現時点において、候補地間の比較をするには至らなかった			
利用者の利便性	二車線道路からの距離が短く、利便性が高い	二車線道路からの距離が比較的長く、利便性が低い	二車線道路からの距離が短く、利便性が高い	二車線道路からの距離が比較的長く、利便性が低い
想定地権者数	優劣はない（5人～28人、用地取得上の支障とはならない）			
想定筆数	優劣はない（8筆～47筆、用地取得上の支障とはならない）			
工事環境	敷地内で掘削土の搬出や建築資材の仮置場が確保できない	施工上の大きな課題はない	施工上の大きな課題はない	敷地内で掘削土の搬出や建築資材の仮置場が確保できない
この区分において優位と評価した候補地	○	○	◎	

⑥ 総合評価

候補地 基本方針(評価区分)	滝沢字駒場ほか	金沢字長沢ほか	千厩字北ノ沢ほか	長坂字長平ほか
①安定性に優れた安全な施設	△	○	◎	
②環境に配慮した施設	◎	◎	◎	
③災害に強い施設	□	□	□	□
④経済性に優れた施設	◎	◎	◎	
⑤その他	○	○	◎	

各区分の評価を総合し、優劣がないと評価した評価区分を除く他の評価区分で最も高い評価を得た「**千厩字北ノ沢ほか**」が最適であると評価

5 主な質問や意見

質 問	回 答
候補地を評価するに当たり、候補地周辺の住宅などの状況を評価するべきではないか。	候補地の評価項目に追加します。
候補地の評価案のとおり建設候補地が決定するのか。	説明会で説明したのは、これまで進めてきた評価作業の結果であり、建設候補地をそれぞれ1か所に絞り込むに当たっては、今後、組合の構成市町である一関市と平泉町と協議し、年内に絞り込みたいと考えています。

組合では、住民の皆様からいただいたご意見などを踏まえながら、より良い施設となるよう施設整備検討委員会で検討し、事業を進めてまいります。詳しくは、組合ホームページをご覧ください。
今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

■問合せ先 一関地区広域行政組合 総務管理課

〒021-8501 一関市竹山町 7-2

TEL 21-2111 内線 8751 FAX 31-3224

一関地区広域行政組合ホームページ

URL <https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/kouiki-gyousei/>

